

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
近畿コンピュータ電子専門学校	昭和61年3月14日	林 宏之	〒593-8326 大阪府堺市西区鳳西町3-712 (電話) 072-265-6666				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人ヒラタ学園	昭和61年3月14日	平田 勇	〒593-8326 大阪府堺市西区鳳西町3-712 (電話) 072-265-6666				
目的	プログラミング言語を基礎から段階的に幅広く学ぶ。在学中に高度な専門知識や技術を磨き、専門職で必要となる資格取得も実施。IT社会の現場に即戦力として対応できる人材を育成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	情報処理専門課程	プログラマ学科	平成15年文部科学省告示第14号	0			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2208	1040	1168	40	0	0
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
160人	44人	3人	3人	6人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目の単位認定は、以下の基準をすべて満たすことで行う。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月14日 ■夏季:8月7日～8月30日 ■冬季:12月22日～1月11日 ■学年末:3月16日～3月31日		卒業・進級条件	(卒業条件)卒業該当学年において120単位以上習得しているもの。 (進級条件)進級該当学年において60単位以上又は、卒業時に120単位以上の取得が見込まれるもの。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 欠席が目立つ学生については保護者へ担任から連絡をする。		課外活動	■課外活動の種類 シーテックジャパン見学会 ☒ スコ企業見学会 困ウリ ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (株)IIJエンジニアリング・SGシステム(株)・(株)NSD・(株)オプティマ・(株)エフ・ラボ・大津コンピュータ(株)・CTCシステムマネジメント(株)・シーレイシステム(株)・シャープビジネスコンピュータソフトウェア(株)・(株)情報科学テクノシステム・(株)ソフテム・(株)DTS・TDIシステムサービス(株)・東芝テックソリューションサービス(株)・(株)ニッセイコム・(株)フルノフテック・ヤフー(株) 他 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 92.6 % ■その他 就職斡旋辞退者2名 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	情報セキュリティスペシャリスト試験/ネットワークスペシャリスト試験 データベーススペシャリスト試験/応用情報技術者試験 基本情報技術者試験/ITパスポート試験 C言語プログラミング能力認定試験 情報処理技術者能力認定試験 Javaプログラミング能力認定試験 マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS) マイクロソフトテクノロジーアソシエイト(MTA) ORACLE MASTER(オラクルマスター) シスコ技術者認定 LPIC(Linux技術者認定試験)/CompTIA/情報検定(J検)			
中途退学の現状	■中途退学者 5名 平成27年4月1日時点におい 在学者 54名 平成28年3月31日時点にお 在学者 49名 ■中途退学の主な理由 一身上の都合、進路変更(異なる業界) ■中退防止のための取組 担任制度を引き、出席不良の学生には担任が連絡し登校させ面談を行っている。また保護者にも連絡し連携をはかっている。学生相談、カウンセリング等学内をあげて、トータルサポートを行っている。		中途退学率	9 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)			
ホームページ	http://kincom.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

情報処理(IT)業界に出現する新技術、新製品に対応でき、業界で即戦力となり活躍できる技術者を育成するため、業界に精通する専門家や企業と連携し、教育課程の編成、授業科目の開設や授業内容・方法等の改善・工夫、仕事をするために必要となる基礎力、業界の動向など、実践的・専門的な教育を実施するため協議・検討することを基本方針とする。また、就職先企業・卒業生に対し訪問を行い、業界で必要となる知識・技術・技能が満足されているのか、不足が発生しているのかを把握し、次への課題として検討することも基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の委員は学校内委員と企業関係者の委員から構成され、よりよい教育課程の編成を協力し行うものと位置付けている。

「教育課程編成に関する意思決定の課程」

- ①まず学内委員により大まかな科目全体の割り当てを決定する。
- ②企業関係者より、業界の動向・新技術・企業に即必要な技術を伺い、次年度の教育課程編成方針を決定する。
- ③学内委員により、詳細な内容の教育課程の案を作成し外部委員に回り、次年度教育課程を決定する。
- ④前期終了後、学内委員により現時点の問題点・課題等を集約し、後期にて改善できるもの、次年度にて改善できるものを洗い出し、委員会にて討議決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 達夫	関西電子情報産業協同組合	平成27年12月22日～ 平成29年12月21日 (2年)	①
楠瀬 修一	株式会社 ソフテム	平成28年1月20日～ 平成30年1月20日 (2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

原則として、2月と9月に実施するものとする。

必要に応じ社会情勢の変化や、就職状況などにより、発生した問題点・課題を委員に情報収集する。

(開催日時)

第1回 平成28年2月9日 14:00～16:00

第2回 平成28年9月28日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「委員よりの意見」

①プログラムは他人のプログラムを拡張して開発することが多く、一から自分で作ることは業界ではなかなか行なわない。教育現場との差があるように感じられるので、他人のプログラムを利用することや、手直しをする技術、テスト技法を身につけた方がよいのではないかと思う。

そのためには、月に一度は企業サイドの授業を設け、専門家を呼んで来てはどうか。

②IT業界で長く活躍するためには様々な業界についての知識を得ることが大切であり、お客様の業界に対応する力が必要である為、業務で使う用語などの知識を習得しておくべきである。また、身だしなみやコミュニケーション能力も必要であり、これらをもっと指導すべきではないか。

「活用状況」

・①に関して、企業にお願いし、講義を組み入れた。

・②に関して、面接就職対策・キャリア教育・現場実習(インターンシップ)を組み入れた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める即戦力となる人材を育成するため、企業と連携し、実践的・専門的、時代に即した実習・演習をとりおこなうことを基本方針とする。

- ①最新の業界動向・専門技術に関しては、IT業界の企業の専門家を講師に招いて授業を行う。
- ②現場実習(インターンシップ)に関しては、IT業界、その他関連企業の受け入れ先を確保し実習指導をおこなってゆく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習・演習前に当校の学科長と企業の講師および実習現場責任者と打ち合わせを行い、実習内容・学生の報告内容・学習成果について定める。実習期間中は学生の実習実施状況や能力取得状況を把握できるよう、企業・学校との情報交換をおこなう。実習終了後は先方企業の講師・現場責任者と学習成果の評価をおこなう。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
Java I	業務の流れや開発手法などを学び、ワーク実習を通してプログラマ、システムエンジニアとはどのような仕事を行う、取り組み方を理解することを目的に実施。	株式会社 ソフトム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

IT業界およびその他関連企業より講師を招き、研修・セミナーに参加し、最新の業界・技術動向の把握及び指導力の習得・向上をおこない学生の指導に活かしてゆく。また、現時点において必要であると認められる技術、および技術に関係する資格については積極的に取得するべく、企業講習会・セミナーに参画することを基本方針とする。

(2)研修等の実績

- ①専攻分野における実務に関する研修等
 - Cisco Networking Academy 新規インストラクタートレーニングに参加 平成27年3月2日 1名参加
 - Comptia Academic Summit2015(ComptiA日本支局/株内田人材開発センター)に参加 平成27年8月19日 1名参加
 - MySQL5.7入門チューニング基礎編(日本オラクル株)に参加 平成28年3月23日 1名参加
- ②指導力の修得・向上のための研修等
 - ヒラタ学園底力プロジェクト(株式会社リクルートマーケティングパートナーズ) 平成28年1月21日 3名参加
 - ヒラタ学園底力プロジェクト(株式会社リクルートマーケティングパートナーズ) 平成28年1月26日 3名参加

(3)研修等の計画

- ①専攻分野における実務に関する研修等
 - 今後もIT業界のセミナーには継続して参加する。
 - CISCO新規インストラクタートレーニング(TraningCenterJapan) 平成28年8月
 - IoTとAI技術についての情報収集(産業技術総合研究所人工知能研究センターなど) 平成28年10月
- ②指導力の修得・向上のための研修等
 - 技術的なセミナーは勿論、新技術に関する情報収集やスキル習得などの講習会へ参加予定
 - 情報処理技術者試験などに関するセミナー(富士通エフ・オー・エム株)
 - SMBCBiznessセミナー(三井住友銀行グループSMBコンサルティング) 平成28年8月

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は学校関係者により構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本としておこなう評価であり、評価という共同作業を通してお互いに理解を深めることを目的とする。自己評価は、学校が自身の教育活動を振り返って成果や課題を分析し、それに基づいて改善案を検討することであり、学校関係者それぞれの立場、視点から意見をいただき、自己評価の客観性・透明性を高め、よりよい学校をつくることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果に対する活用状況

- ①各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。
・各学科において、教育課程編成委員会を開催し、企業・団体より、多くの業界ニーズに対応するため、企業アンケートをおこない、課題の分析をおこなった。
- ②業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制に課題がある。
・コンプライアンス体制を整備し、規定等見直しコンプライアンスに沿った適正な学校運営をおこない、また教職員行動規範を策定し実行し、学生に対するセクハラ・パワハラ相談員を設置し、体制を整備した。
- ③関連分野の企業・業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し及び実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。
・業界団体などとの連携を積極的に推進し、教育課程編成委員会を各科単位で実施し、これを基に見直しを実施した。また、職業教育については企業連携授業にて実践的な職業教育を実施した。
- ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
・グループウェア導入により卒業生・在校生とのコミュニケーション強化を実施した。
- ⑤地域に対する公開講座・教育訓練等に関して、実施しているのか。
・大阪府教職員向け公開夏期講座を開催し、多数の教職員の方々に受講いただいた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在			
名前	所属	任期	種別
中西 良雄	堺電気工事工業協同組合	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日 (2年)	団体
飯田 康彦	都築電気株式会社	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日 (2年)	企業
高木 亜由美	株式会社イチカラム	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日 (2年)	企業
楠瀬 修一	株式会社ソフテム	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ (公表年月日:平成28年10月1日) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:http://kincom.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の学校関係者に当校がどのような学校であり、どのような状況にあるのか、学校全体の状況を把握できるようにすることが重要であり、そのためには、当校の基礎的情報を含めた必要な情報が、当校自身から関係者等にわかりやすい形で、自発的・積極的に示すことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://kincom.ac.jp/>

授業科目等の概要

(情報処理専門課程プログラマ学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Java I	Java の基礎的コードを理解し、基本的な手続き型プログラムからオブジェクト指向プログラミングまでを学習する。	1前	64	4	○			○	○	○	○	
○			C言語	他のプログラム言語の習得に対してベースとなり得るプログラミングの基礎を学習する。	1前	64	4	○			○		○	○	
○			Webページ制作基礎	基礎的なHTML/CSSを使ったレイアウト構築手法。入力フォームの生成とJavaScriptのイベント。データ送受信の基礎について学習する。	1前	64	4	○			○		○	○	
○			Windows7アプリケーション基礎	VB を使用し、.NET Framework 対応アプリケーションを開発するための基本文法、オブジェクト指向プログラミングに必要な文法を講義と実習を交えて学習。	1前	32	2	○			○		○	○	
○			データベース	データベース管理システムの基本的な考え方と機能を学習し、データベースを利用したシステム開発や、データ管理に必要な知識と技術を修得。	1前	48	3	○			○		○		
○			情報処理技術者	情報処理技術者試験の取得に向けて学習する。	1前	112	7	○			○		○	○	
○			ハードウェア概論	CompTIA A+の教材を応用し、ハードウェアの基礎知識を身につける。	1前	32	2	○	○		○		○	○	
○			キャリア対策	SPIの特徴と攻略法。言語、非言語能力問題について繰り返し学習する。	1前	64	4	○			○		○		
○			アルゴリズム基礎	アルゴリズム作成に必要な考え方、情報処理技術者試験などの擬似言語対策を実施する。	1前	32	2	○			○		○	○	
○			簿記	情報処理試験の対策や日商簿記3級程度の取得を目指す。	1前	32	2	○			○		○	○	
○			Office実習	業務で使える知識としてMOS資格取得、同時にビジネス文章作成などを学習する。	1前	64	4	○			○		○	○	

○		Java I	オブジェクト指向を理解し、パッケージ機能やよく使われるクラス、標準ライブラリによって提供される機能を学習する。	1 後	64	4		○	○	○	○	○	○
○		C言語	基本入出力、アルゴリズムの考え方から、配列、ポインタ、構造体などの実践的なプログラミング技法までを設定された実習課題をもとに学習する。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		C++	C言語の応用として、C++言語の基礎を、オブジェクト指向の基礎知識を踏まえて習得する。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		Webページ制作 応用	データベースとの連携やファイル処理を学習し、Webアプリの制作を実施する。	1 後	64	4		○	○	○			
○		.NETアプリケーションI	複数フォームの利用などの規模が大きいプログラムを管理できる技術を学習。実習課題を通じて実践的なプログラム技術を学習する。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		データベース	ORACLE MASTERの科目である「SQL 基礎 I」の取得を目標に、SQLの応用を講義と実習を交えながら学習する。	1 後	48	3		○	○	○			
○		情報処理技術者	情報処理技術者試験の取得に向けて学習する。	1 後	112	7		○	○	○	○		
○		ハードウェア 概論	継続してハードウェア構成を学び、Comptia A+(801, 802)などの取得取得を目指す。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		キャリア対策	企業を招いた業界研究や動向把握・ES作成方法を学び、自己分析を中心に就職活動の事前準備を実施していく。	1 後	64	4		○	○	○			
○		システム設計	要求定義、設計、開発、テスト、運用の各工程における手順や技法を学習する。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		簿記	情報処理試験の対策や日商簿記3級程度の取得を目指す。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		Office実習	業務で使える知識としてMOS資格取得、同時にビジネス文章作成などを学習する。	1 後	32	2		○	○	○	○		
○		課外授業	企業講演会やセミナー、実機演習などを体験し、業界の動向や目指す職業についての知識を得る。	1 通	16	1		○	△	○	○	○	
○		Java II	Java言語を用いたプログラミングのうち、より実践向きの中級～上級の開発テクニックを習得する。	2 前	64	4		○	○	○	○		

○		C++	オブジェクト指向プログラミング応用技術の習得。 より効果的なクラスを設計するための知識を、講義と実習を交えて学習する。	2 前	32	2		○	○	○	○		
○		Webアプリケーション 開発	最新のWeb技術であるHTML5の基礎を学習する。	2 前	64	4		○	○	○			
○		.NETアプリケーション II	Windows アプリケーションのユーザーインターフェイスの作成から画面間の連携、データベースの参照や更新までを学習。	2 前	32	2		○	○	○	○		
○		SQL/DBA	ORACLE MASTERの科目である「DBA」の取得を目標に、データベース管理・運用について講義と実習を交えながら学習する。	2 前	32	2		○	○	○			
○		情報処理技術 者	情報処理技術者試験の取得に向けて学習する。	2 前	112	7	○		○	○	○		
○		ネットワーク 実習	伝送の手順と接続方式、ネットワークの構築、運用と保守。また安全対策などの基礎的な知識と技法を実技を交えて習得する。	2 前	32	2	△	○	○	○	○		
○		ソフトウェア 理論	疑似言語を用いてアルゴリズム思考能力を養う。	2 前	32	2	○		○	○	○		
○		キャリア対策	継続して業界研究・ES作成・グループディスカッションの学習を行い、自身の進路を決定していく。	2 前	32	2	○		○	○			
○		システム設計	情報システムを開発する上で必要な知識として、各工程別に必要となる作業内容や作業目的を学習し、想定したアプリケーションに対して設計書の作成を行っていく。	2 前	32	2		○	○	○	○		
○		オープンソース 実習	オープンソースについての基礎知識を学ぶ。	2 前	32	2	○		○	○			
○		モバイル開発	スマートフォン端末上で動作するAndroidアプリケーションを開発できる技術の基礎を学習する。	2 後	64	4		○	○	○	○		
○		C#	.NET Framework 対応アプリケーションを開発するために必要な基本文法、オブジェクト指向プログラミングに必要な文法を講義と実習を交えて学習。	2 後	64	4		○	○	○	○		
○		作品制作	学習の集大成として作品制作を行い完成させる。	2 後	80	5		○	○	○	○		
○		DBA	前期に引き続きORACLE MASTERの科目である「DBA」の取得を目標に、データベース管理・運用について講義と実習を交えながら学習する。	2 後	32	2		○	○	○			

○		情報処理技術者	情報処理技術者試験の取得に向けて学習する。	2後	112	7	○			○		○	○
○		ネットワーク実習	伝送の手順と接続方式、ネットワークの構築、運用と保守。また安全対策などの基礎的な知識と技法を実技を交えて習得する。	2後	32	2	△	○		○		○	○
○		ソフトウェア理論	疑似言語を用いてアルゴリズム思考能力を養う。	2後	32	2	○			○		○	○
○		キャリア対策	PCスキルなどの向上を行い、ビジネス文書作成や社会人としてのPCスキルを学ぶ。	2後	32	2	○			○		○	
○		システム設計	情報システムを開発する上で必要な知識として、各工程別に必要となる作業内容や作業目的を学習し、想定したアプリケーションに対して設計書の作成を行っていく。	2後	16	1		○		○		○	○
○		オープンソース開発	システムが動作する環境の概念を理解し、OSS開発の演習を実施する。	2後	32	2	○			○		○	
○		課外授業	企業講演会やセミナー、実機演習などを体験し、業界の動向や目指す職業についての知識を得る。	2通	16	1	○	△		○		○	○
	○	インターンシップ	企業で一定期間実務体験をし、職業観や職種等についての適性を見極め、自身の将来像を考える。	2通	40	2			○		○		
合計				47科目		2248単位時間		(140単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全ての科目は必須科目であり、全ての単位を取得する必要がある。 科目の単位取得については、6割以上の点数取得と80%以上の出席が必要である。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。